

手塚雄二年譜

西暦（元号）	年齢	月	事項
一九五三（昭和二十八）年	〇歳	二月	四日、神奈川県鎌倉市で、友禪染付絵師の手塚隆雄と、美恵子の次男として誕生。鎌倉市二階堂で過ごす。
一九五七（昭和三十二）年	四歳		この年、東京都新宿区に転居。
一九五九（昭和三十四）年	六歳	四月	新宿区立淀橋第一小学校に入学。
		九月	東京都練馬区に転居。練馬区立石神井西小学校に転校。
一九六五（昭和四十）年	十二歳	三月	練馬区立石神井西小学校を卒業。
		四月	練馬区立上石神井中学校に入学。
一九六八（昭和四十三）年	十五歳	三月	練馬区立上石神井中学校を卒業。
		四月	都立井草高等学校に入学。
一九七一（昭和四十六）年	十八歳	三月	都立井草高等学校を卒業。
一九七六（昭和五十一）年	二十三歳	四月	東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻に入学。
一九七八（昭和五十三）年	二十五歳	十一月	小林生子と結婚。東京都台東区に転居。
			この年、東京藝術大学美術学部の安宅賞を受賞。
一九七九（昭和五十四）年	二十六歳	四月	第三十四回春の院展（日本橋三越本店）に《歌占い》を初出品、初入選。以後、毎年出品。
		九月	再興日本美術院第六十四回院展（東京都美術館）に《午後》を初出品、初入選。以後、毎年出品。
一九八〇（昭和五十五）年	二十七歳	三月	東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻を卒業。卒業制作《夢模様》が、サロン・ド・プランタン賞を受賞。
		三月	第三十五回春の院展（日本橋三越本店）で《予感》が入選。
		四月	東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻（日本画）に入学。
		三月	第三十六回春の院展（日本橋三越本店）で《遊戯》が入選。
一九八一（昭和五十六）年	二十八歳	三月	第三十七回春の院展（日本橋三越本店）で《季（とき）の話》が入選。
		九月	第六十六回再興院展（東京都美術館）で《季（とき）の忘れもの》が入選。
一九八二（昭和五十七）年	二十九歳	三月	東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻（日本画）を修了、芸術学修士。修了制作《迷宮》が第一回台東区長賞を受賞。
		四月	修了模写《高松塚古墳壁画》が東京藝術大学の買い上げとなる。
			東京藝術大学美術学部絵画科日本画研究室非常勤助手となる。
			東京藝術大学大学院生研修訪中団に参加、以後一九九二（平成四）年まで隔年中国を訪れる。

一九八三（昭和五十八）年	三十歳	四月	第三十八回春の院展（日本橋三越本店）で《咲く頃》が入選。
一九八四（昭和五十九）年	三十一歳	三月 四月 七月	第一回五弦会展（梅原幸雄・北田克己・戸島朋子・吉原慎介、銀座スルガ台画廊）に出品、以後一九八七（昭和六十二年）、第五回展まで出品。 第六十八回再興院展（東京都美術館）で《海へ》が入選、日本美術院院友に推挙される。 この年、第一回明日香会（フジキ画廊）に出品。 東京セントラル美術館大賞展（東京セントラル美術館）に《少女季》を招待出品。 第三十九回春の院展（日本橋三越本店）で《春立（はるたつ）》が入選。 第二回五弦会展（銀座スルガ台画廊）に出品。 長女、春菜が誕生。
一九八五（昭和六十）年	三十二歳	一月 四月 五月 六月 九月 十二月	第六十九回再興院展（東京都美術館）で《来蕾（つぼみくる）》が入選。 日本画四人展（遠藤正己・斎藤典彦・鳥山玲、みゆき画廊）に出品。 第一回草思会（宮廻正明・吉田多最、清澄画廊）に出品、以後三回出品。 この年、第二回明日香会（フジキ画廊）に出品。 第一回鳳の会（柘美術）に出品。 第一回鴻志会（高橋秀年・西田俊英・藤田時彦・吉原慎介、粟津画廊）に出品。 東京藝術大学大学院日本画第三講座研修訪中団に参加。 第四回新珠会（名古屋松坂屋）に出品、以後、一九八八（昭和六十二年）、第七回まで出品。 第四十回春の院展（日本橋三越本店）で《月牙泉（げつがせん）》が入選。 第一回アテナ展（西田俊英・宮廻正明・吉原慎介・篠内佐斗司、小林画廊）に出品。 第三回五弦会展（銀座スルガ台画廊）に出品。 第七十回再興院展（東京都美術館）で《遙遠》が入選。 第二回草思会（清澄画廊）に出品。 インドへスケッチ旅行に赴く。
一九八六（昭和六十一年）年	三十三歳	一月 三月 四月 五月 六月 九月 十二月	この年、第二回鳳の会（柘美術）に出品。 第二回鴻志会（粟津画廊）に出品。 第五回新珠会（名古屋松坂屋）に出品。 東京藝術大学大学院日本画第三講座、保存修復技術講座による大学院生研修訪中団に参加。 第四十一回春の院展（日本橋三越本店）で《夕照》が入選。 第二回アテナ展（小林画廊）に出品。 第四回五弦会展（銀座スルガ台画廊）に出品。 第七十一回再興院展（東京都美術館）での入選作《泉》で初の奨励賞を受賞。 第三回草思会（清澄画廊）に出品。 この年、第3回鳳の会（柘美術）に出品。 第三回鴻志会（粟津画廊）に出品。
一九八七（昭和六十二年）年	三十四歳	一月 三月 五月 六月 九月 十月 十二月	第六回新珠会（名古屋松坂屋）に出品。 院展受賞作家新作展（銀座松坂屋）に出品。 第四十二回春の院展（日本橋三越本店）に《洗（こう）》を無鑑査出品、初の奨励賞を受賞。 インドへスケッチ旅行に赴く。 第三回アテナ展（小林画廊）に出品。 第五回五弦会展（銀座スルガ台画廊）に出品。 第七十二回再興院展（東京都美術館）で《陽黄》が入選、再び奨励賞を受賞。 ミアチュール展（小林画廊）に出品。 第一回耕日会（倉島重友・宮廻正明、清澄画廊）に出品、以後第六回まで出品。 この年、第四回鴻志会（粟津画廊）に出品。
一九八八（昭和六十二年）年	三十五歳	一月 三月 五月 九月 十一月 十二月	第七回新珠会（名古屋松坂屋）に出品。 院展受賞作家新作展（銀座松坂屋）に出品。 東京セントラル美術館大賞展（東京セントラル美術館）に《有径》を招待出品。 第四十三回春の院展（日本橋三越本店）に《耀（よう）》を無鑑査出品、再び奨励賞を受賞。 第四回アテナ展（小林画廊）に出品。 東京藝術大学大学院生研修訪中団に参加。 第七十三回再興院展（東京都美術館）に《炫（げん）》を出品、三回連続の奨励賞を受賞。 第二十二回現代美術選抜展（文化庁ほか主催、豊田市民文化会館）に《陽黄》（第七十二回再興院展出品作）が出品される。 第二回耕日会（清澄画廊）に出品。 秋、第一回永森の会（宮廻正明・吉原慎介、大発画廊）に出品、以第、一九九二（平成四）年の第五回まで出品。 またこの年、第五回鴻志会（粟津画廊）に出品。
一九八九（昭和六十四／平成元）年	三十六歳	一月 三月 五月 八月 九月 十二月	院展受賞作家新作展（銀座松坂屋）に出品。 第四十四回春の院展（日本橋三越本店）に《慕（ぼ）》を無鑑査出品。初の春季展賞を受賞。 第五回アテナ展（小林画廊）に出品。 日本美術院特待に推挙される。 第七十四回再興院展（東京都美術館）で《潤（じゅん）》、初の日本美術院賞（大観賞）を受賞。 第三回耕日会（清澄画廊）に出品。 秋、第二回永森の会（大発画廊）に出品。
一九九〇（平成二年）年	三十七歳	一月 四月 五月 六月	院展受賞作家新作展（銀座松坂屋）に出品。 第四十五回春の院展（日本橋三越本店）に《春映る》を無鑑査出品、三回目の奨励賞を受賞。 東京藝術大学美術学部絵画科日本画研究室助手となる。 第六回アテナ展（小林画廊）に出品。 第九回日本美術院奨学金（前田青邨賞）を受賞。

一九九一（平成三年）	三十八歳	九月 十一月 十二月	第七十五回再興院展（東京都美術館）で《嶺（れい）》が入選、再び日本美術院賞（大観賞）を受賞。 第二十四回現代美術選抜展（文化庁ほか主催、秋田総合生活文化会館美術館）に《潤》（第七十四回再興院展出品作）が出品される。 第四回耕日会（清澄画廊）に出品。 秋、第三回永焱の会（大発画廊）に出品。 この年、《四季の森》（大阪警察病院陶板原画）を制作。 東京藝術大学大学院生研修訪中団に参加。 院展受賞作家新作展（銀座松坂屋）に出品。 第四十六回春の院展（日本橋三越本店）に《市民》を無鑑査出品、再び春季展賞を受賞。 フランス、イタリヤへ取材のため旅行。 第七回現代作家美術展（東京美術倶楽部）に招待出品。 第七回アテナ展（小林画廊）に出品。 第七十六回再興院展（東京都美術館）で《市民》が日本美術院賞（大観賞）を三回連続受賞。 第二十五回現代日本美術選抜展（文化庁ほか主催、北網圏北見市文化センター美術館）に《嶺》（第七十五回再興院展出品作）が出品される。 第五回耕日会（清澄画廊）に出品。 秋、第四回永焱の会（大発画廊）に出品。 インド取材旅行。 昭和天皇家勲章制作。
一九九二（平成四年）	三十九歳	一月 三月 四月 五月 九月 十一月 十二月	院展受賞作家新作展（銀座松坂屋）に出品。 第四十七回春の院展（日本橋三越本店）に《沙河（しゃが）》を無鑑査出品、奨励賞を受賞。 東京藝術大学美術学部絵画科日本画研究室講師に就任。 「藏王堂再建400年記念奉納襖絵展」(福井爽人・宮廻正明、ギャラリー鉄斎堂)に《三日月》《霧》《昼海》《ちゅうかい》《夜海》《やかい》を出品。 日本美術院招待に推挙される。 第八回アテナ展（小林画廊）に出品。 第七十七回再興院展（東京都美術館）に《裏窓》を招待出品。 第十二回東美特別展「中国陶磁と現代日本画・木彫」。 日本美術院同人に推挙される。 金峰山寺本坊障壁画《三日月》《霧》《昼海》《夜海》を「藏王堂四百年祭」で奉納。 第六回耕日会（清澄画廊）に出品。 秋、第五回永焱の会（大発画廊）に出品。 この年、第一回銀の会（植田一穂・岡村桂三郎・斎藤典彦、栗津画廊）に出品。 東京藝術大学大学院生研修訪中団に参加。 第四十八回春の院展（日本橋三越本店）に《漢牛》を出品。 第九回アテナ展（小林画廊）に出品。
一九九三（平成五年）	四十歳	三月 五月	第一回月華展（坂部隆芳・保田井智之、ギャラリー大越）に出品。 第七十八回再興院展（東京都美術館）に《落日（らくじつ）》を出品。 再興日本美術院八十年記念展（日本美術院・日本経済新聞社ほか主催、日本橋三越本店）に《市民》（第七十六回再興院展出品作）が出品される。 昭和天皇家勲章制作。 この年、セレネ美術館の招待で黒部峡谷の取材を始め、スケッチに力を入れる。 第二回銀の会（栗津画廊）に出品。 第一回春耕会（伊藤彰耳・小田野尚之・田湖俊夫・宮廻正明・藁谷実、清澄画廊）に出品。以後、第四回を除き第五回まで出品。 第四十九回春の院展（日本橋三越本店）に《終宴》を出品。 平成五年度文化庁買上優秀美術作品七点の内に《落日》（第七十八回再興院展出品）が選出、日本芸術院会館で授賞式が開催される。 第十回アテナ展（小林画廊）に出品。 第十六回日本秀作美術展（読売新聞社・美術館連絡協議会主催、日本橋高島屋）に《落日》が出品される。 第二回月華展（ギャラリー大越）に出品。 第七十九回再興院展（東京都美術館）に《幻の瀧》を出品。 芸術資料館取手館竣工記念 美術学部教官作品展（教官七十五名、東京藝術大学資料館取手多目的ホール）に《炫》（第七十三回再興院展出品作）を出品。 第二十八回現代美術選抜展（文化庁ほか主催、長岡市美術センター）に《落日》（第七十八回再興院展出品作）出品される。 第七回日本美術院同人展（名古屋松坂屋）に出品。 この年、第三回銀の会（栗津画廊）に出品。 祇園展（ギャラリー鉄斎堂）に出品。
一九九四（平成六年）	四十一歳	二月 三月	五弦会+五彩会（五弦会メンバーと伊藤深游木・小田野尚之・佐々木正・武井好之・藁谷剛巳、銀座スルガ台画廊）に出品。 東美青年会創立60周年記念 美の継承展（東京美術倶楽部）に出品。 第二回春耕会（清澄画廊）に出品。 第五十回春の院展（日本橋三越本店）に《美空（みそら）》を出品。 東京藝術大学美術学部絵画科日本画研究室助教授に就任。 ナカジマアート開廊記念展に《うつせみ》を出品。 第一回呉呉會（小林画廊）に出品。 第三回月華展（ギャラリー大越）に出品。 第八十回再興院展（東京都美術館）に《黒の壁》を出品。 第八回日本美術院同人展（名古屋松坂屋）に《月の轍》を出品。 この年、和泉流狂言師の野村萬斎襲名披露扇子を制作。
一九九五（平成七年）	四十二歳	一月 二月 三月 四月 五月 六月 九月 十一月	第一回息吹の会（ナカジマアート）に出品。 第三回春耕会（第三回以降メンバーに飯内佐斗司が加わる、清澄画廊）に出品。
一九九六（平成八年）	四十三歳	一月 二月	

二〇〇二（平成十四）年	四十九歳	一月	<p>日本橋三越本店にて「天地風雷 手塚雄二日本画展」（三越主催）を開催、その後大阪三越、福岡三越へ巡回。</p> <p>この年、第三回青藍展（画廊きよみず）に出品。</p> <p>「奈良県立万葉文化館所蔵 万葉歌を描く」（松屋銀座店、全国巡回）に出品される。</p> <p>息吹の会（名古屋松坂屋）に出品。</p> <p>台東区生涯学習センターにて、画家自身による《星と月と》台東区寄贈式が開催される。</p> <p>第五十七回春の院展（日本橋三越本店）に《夜奏》を出品。</p> <p>第一回高奏会（京都高島屋）に出品。</p> <p>第二回21世紀展（東京美術倶楽部、全国巡回）に出品。</p> <p>第二十四回日本秀作美術展（日本橋高島屋）に《星と月と》が出品される。</p> <p>第二回創星記（小林画廊）に出品。</p> <p>原田康子『海霧』装幀画として《海霧》を制作。</p> <p>第八十七回再興院展（東京都美術館）に《創星那智》を出品。</p> <p>第十五回日本美術院同人展（名古屋松坂屋）に《燈刻》を出品。</p> <p>第一回東山魁夷記念 日経日本画大賞展（ニューオータニ美術館）で《風雷屏風》が入賞。</p> <p>第八回風靡の会（靖雅堂夏日美術店）に出品。</p> <p>第二回玲玲会（紫鴻画廊）に出品。</p> <p>この年、薬師寺展開催記念画集『散華』の《耳成山の組》に《雅葉》を制作（薬師寺展会場は日本橋三越本店）。</p> <p>第五十八回春の院展（日本橋三越本店）に《花尋》を出品。</p> <p>旅の光彩展（ナカジマアート）に出品。</p> <p>第二回高奏会（京都高島屋）に出品。</p> <p>第三回21世紀展（東京美術倶楽部、全国巡回）に出品。</p> <p>「第五十八回春の院展 松江展」開催に伴うトークショー「日本画の見方と、春の院展作品の技法について」に、宮廻正明、西田俊英、村上裕二とともに参加。</p> <p>「新樹会」会期にあわせたギャラリートークに宮廻正明とともに参加（日本橋三越本店）。</p> <p>第二十五回日本秀作美術展（日本橋高島屋）に《創星那智》が出品される。</p> <p>新潟県立万代島美術館 開館記念展Ⅰ「絵画の現在」に《風雷屏風》が出品される。</p> <p>第八十八回再興院展（東京都美術館）に《海霧》を出品。</p> <p>小林画廊にて「手塚雄二展——ちいさきものたちへ——」を開催。</p> <p>東京藝術大学教授陣による美術講座「制作のプロセス―構想から作品へ―」第三回の日本画「下図から本画へ」講演。</p> <p>台東区教育委員に就任。</p> <p>富山県立近代美術館開催の置県120年記念「富山を描く平成の20景」事業のための制作の依頼を受ける。</p> <p>第九回風靡の会（靖雅堂夏日美術店）に出品。</p> <p>この年、第四回青藍展（画廊きよみず）に出品。</p>
二〇〇三（平成十五）年	五十歳	三月 四月	<p>この年、薬師寺展開催記念画集『散華』の《耳成山の組》に《雅葉》を制作（薬師寺展会場は日本橋三越本店）。</p> <p>第五十八回春の院展（日本橋三越本店）に《花尋》を出品。</p> <p>旅の光彩展（ナカジマアート）に出品。</p> <p>第二回高奏会（京都高島屋）に出品。</p> <p>第三回21世紀展（東京美術倶楽部、全国巡回）に出品。</p> <p>「第五十八回春の院展 松江展」開催に伴うトークショー「日本画の見方と、春の院展作品の技法について」に、宮廻正明、西田俊英、村上裕二とともに参加。</p> <p>「新樹会」会期にあわせたギャラリートークに宮廻正明とともに参加（日本橋三越本店）。</p> <p>第二十五回日本秀作美術展（日本橋高島屋）に《創星那智》が出品される。</p> <p>新潟県立万代島美術館 開館記念展Ⅰ「絵画の現在」に《風雷屏風》が出品される。</p> <p>第八十八回再興院展（東京都美術館）に《海霧》を出品。</p> <p>小林画廊にて「手塚雄二展——ちいさきものたちへ——」を開催。</p> <p>東京藝術大学教授陣による美術講座「制作のプロセス―構想から作品へ―」第三回の日本画「下図から本画へ」講演。</p> <p>台東区教育委員に就任。</p> <p>富山県立近代美術館開催の置県120年記念「富山を描く平成の20景」事業のための制作の依頼を受ける。</p> <p>第九回風靡の会（靖雅堂夏日美術店）に出品。</p> <p>この年、第四回青藍展（画廊きよみず）に出品。</p>
二〇〇四（平成十六）年	五十一歳	一月 三月 四月 五月 六月 九月 十一月	<p>東京藝術大学教授に就任。</p> <p>増保美術にて「古美術と手塚雄二」展を開催。</p> <p>第五十九回春の院展（日本橋三越本店）に《風宴》を出品。</p> <p>東京都美術館運営委員に就任。</p> <p>第三回高奏会（京都高島屋）に出品。</p> <p>第四回21世紀展（東京美術倶楽部、全国巡回）に出品。</p> <p>ゆすらの会（靖雅堂夏日美術店主催、横浜そごう）に出品。</p> <p>第四回創星記（小林画廊）に出品。</p> <p>紫鴻画廊にて「手塚雄二展 神の宿り」を開催。</p> <p>第八十九回再興院展（東京都美術館）に《夕霧》を出品。</p> <p>福井県三国町海岸にて「天心記念ふくいスケッチ会」に参加（日刊県民福井・日本美術院・県立美術館共催）。</p> <p>名古屋松坂屋にて「手塚雄二新作展」を開催、銀座松坂屋、静岡松坂屋に巡回。</p> <p>第十回風靡の会（靖雅堂夏日美術店）に出品。</p> <p>第一回理想の会（山下画廊）に出品。</p> <p>第二回奈良県万葉日本画大賞展の審査員を務める。</p> <p>第十一回松伯美術館花鳥画展の審査員を務める。</p> <p>第六十回春の院展（日本橋三越本店）に《華》を出品。</p> <p>富山県立近代美術館「ふるさとの美 富山を描く120景」に《湖》を出品。</p> <p>第五回21世紀展（東京美術倶楽部）に出品。</p> <p>ナカジマアートにて「月の歌人明恵上人によせて 手塚雄二展」を開催。</p> <p>第五回創星記（小林画廊）に出品。</p> <p>東京国際フォーラム「アートフェア東京 手塚雄二展」（ギャラリースギぬ主催）に出品。</p> <p>第九十回再興院展（東京都美術館）に《きらめきの森》を出品。</p> <p>第一回煌耀会（日本橋高島屋）に出品。</p> <p>第十八回国民文化祭・福井2005の審査員を務める。</p> <p>「再興院展九十回のおゆみ」（NHKプロモーション主催、日本橋三越本店）に《裏窓》（第七十七回再興院展出品作）が出品される。</p> <p>第十八回日本美術院同人展（名古屋松坂屋）に《花誘》を出品。</p> <p>第十一回風靡の会（靖雅堂夏日美術店）に出品。</p> <p>この年、第五回青藍展（画廊きよみず）に出品。</p> <p>第十二回松伯美術館花鳥画展の審査員を務める。</p> <p>第六十一回春の院展（日本橋三越本店）に《秋韻（しゅういん）》を出品。</p> <p>日本橋高島屋にて「手塚雄二——花月草星展」（日本経済新聞社主催）を開催、卒業制作（一九八〇年）から開催時点最新作（二〇〇六年）まで、五十六点を出品。横浜高島屋、名古屋高島屋、京都高島屋、大阪高島屋へ巡回。</p>
二〇〇五（平成十七）年	五十二歳	一月 三月	<p>この年、薬師寺展開催記念画集『散華』の《耳成山の組》に《雅葉》を制作（薬師寺展会場は日本橋三越本店）。</p> <p>第五十八回春の院展（日本橋三越本店）に《花尋》を出品。</p> <p>旅の光彩展（ナカジマアート）に出品。</p> <p>第二回高奏会（京都高島屋）に出品。</p> <p>第三回21世紀展（東京美術倶楽部、全国巡回）に出品。</p> <p>「第五十八回春の院展 松江展」開催に伴うトークショー「日本画の見方と、春の院展作品の技法について」に、宮廻正明、西田俊英、村上裕二とともに参加。</p> <p>「新樹会」会期にあわせたギャラリートークに宮廻正明とともに参加（日本橋三越本店）。</p> <p>第二十五回日本秀作美術展（日本橋高島屋）に《創星那智》が出品される。</p> <p>新潟県立万代島美術館 開館記念展Ⅰ「絵画の現在」に《風雷屏風》が出品される。</p> <p>第八十八回再興院展（東京都美術館）に《海霧》を出品。</p> <p>小林画廊にて「手塚雄二展——ちいさきものたちへ——」を開催。</p> <p>東京藝術大学教授陣による美術講座「制作のプロセス―構想から作品へ―」第三回の日本画「下図から本画へ」講演。</p> <p>台東区教育委員に就任。</p> <p>富山県立近代美術館開催の置県120年記念「富山を描く平成の20景」事業のための制作の依頼を受ける。</p> <p>第九回風靡の会（靖雅堂夏日美術店）に出品。</p> <p>この年、第四回青藍展（画廊きよみず）に出品。</p>
二〇〇六（平成十八）年	五十三歳	一月 三月	<p>この年、薬師寺展開催記念画集『散華』の《耳成山の組》に《雅葉》を制作（薬師寺展会場は日本橋三越本店）。</p> <p>第五十八回春の院展（日本橋三越本店）に《花尋》を出品。</p> <p>旅の光彩展（ナカジマアート）に出品。</p> <p>第二回高奏会（京都高島屋）に出品。</p> <p>第三回21世紀展（東京美術倶楽部、全国巡回）に出品。</p> <p>「第五十八回春の院展 松江展」開催に伴うトークショー「日本画の見方と、春の院展作品の技法について」に、宮廻正明、西田俊英、村上裕二とともに参加。</p> <p>「新樹会」会期にあわせたギャラリートークに宮廻正明とともに参加（日本橋三越本店）。</p> <p>第二十五回日本秀作美術展（日本橋高島屋）に《創星那智》が出品される。</p> <p>新潟県立万代島美術館 開館記念展Ⅰ「絵画の現在」に《風雷屏風》が出品される。</p> <p>第八十八回再興院展（東京都美術館）に《海霧》を出品。</p> <p>小林画廊にて「手塚雄二展——ちいさきものたちへ——」を開催。</p> <p>東京藝術大学教授陣による美術講座「制作のプロセス―構想から作品へ―」第三回の日本画「下図から本画へ」講演。</p> <p>台東区教育委員に就任。</p> <p>富山県立近代美術館開催の置県120年記念「富山を描く平成の20景」事業のための制作の依頼を受ける。</p> <p>第九回風靡の会（靖雅堂夏日美術店）に出品。</p> <p>この年、第四回青藍展（画廊きよみず）に出品。</p>

二〇〇七（平成十九）年	五十四歳	三月 九月	第九十一回再興院展（東京都美術館）に《迦羅須》を出品。 この年、上野の森美術館大賞展の審査員を務める。 第六十二回春の院展（日本橋三越本店）に《春》を出品。 第九十二回再興院展（東京都美術館）に《憬》を出品。 イタリアへ取材旅行に赴く。
二〇〇八（平成二十）年	五十五歳	一月 四月 九月 十一月	日本橋三越本店にて「光陰 手塚雄二日本画展」を開催、名古屋三越、松山三越へ巡回。 第六十三回春の院展（日本橋三越本店）に《海しぐれ》を出品。 第九十三回再興院展（東京都美術館）に《朝霧》を出品。 アメリカ（ニューヨーク）でアジア・コンテンポラリー・アート・フェア2008開催、《雷神雷雲》《風雲風神》ほかを出品。 この年、公益財団法人台東区芸術文化財団理事に就任。
二〇〇九（平成二十一）年	五十六歳	三月 九月 十二月	第六十四回春の院展（日本橋三越本店）に《晩夏》を出品。 第九十四回再興院展（東京都美術館）に《こかげみち》を出品。 この年、「エキからエコ。地球温暖化を、環境アートから考える。」に参加。以後、毎年参加。
二〇一〇（平成二十二）年	五十七歳	一月 三月 九月 十月	紫鴻画廊にて「『天の彩り』手塚雄二展」を開催。 第六十五回春の院展（日本橋三越本店）に《千の滝》を出品。 第九十五回再興院展（東京都美術館）に《奥入瀬飛流》を出品。 そごう美術館にて「手塚雄二 一瞬と永遠のはざま〜（朝日新聞社、神奈川新聞社ほか主催）を開催、名古屋松坂屋に巡回。
二〇一一（平成二十三）年	五十八歳	三月 九月 十一月	第六十六回春の院展（日本橋三越本店）に《蒼青》を出品。 第九十六回再興院展（日本橋三越本店）に《奥入瀬翔流》を出品。 河原町画廊にて共同通信挿絵展「手塚雄二 挿絵原画展 ―ささやかな日々―」を開催。 ASIA TOP GALLERY HOTEL ART FAIR, HONG KONG 出品 (GALLERY KOGURE HOUS)。
二〇一二（平成二十四）年	五十九歳	三月 九月	第六十七回春の院展（日本橋三越本店）に《おぼろづくよ》を出品。 第九十七回再興院展（東京都美術館）に《天橋立》を出品。 この年、日本美術院理事となる。
二〇一三（平成二十五）年	六十歳	一月 三月 四月 九月	ナカジマアートにて「手塚雄二展『散華』」を開催。 第六十八回春の院展（日本橋三越本店）に《花夜》を出品。 紫鴻画廊にて個展を開催。 第九十八回再興院展（東京都美術館）に《遠望立山》を出品。 山下画廊にて東美特別展を開催。福井県立美術館特別館長に就任。 ドイツ、チェコ取材旅行
二〇一四（平成二十六）年	六十一歳	一月 三月 九月	天満屋岡山本店にて「天満屋創業185周年記念 手塚雄二展」を開催、巡回。 第六十九回春の院展（日本橋三越本店）に《雪静》を出品。 第九十九回再興院展（東京都美術館）に《春夜》を出品。
二〇一五（平成二十七）年	六十二歳	十一月 三月 九月	日本橋三越本店にて個展「憬」を開催、その後仙台三越、福岡三越へ巡回。 第七十回春の院展（日本橋三越本店）に《秋麗》を出品。 第一〇〇回再興院展（東京都美術館）に《不忍》を出品。 第七十一回春の院展（日本橋三越本店）に《残雪》を出品。 第一〇一回再興院展（東京都美術館）に《冬の川》を出品。 紫鴻画廊にて個展を開催。
二〇一六（平成二十八）年		十二月 九月 三月	この年、日本美術院業務執行理事に就任。 第七十二回春の院展（日本橋三越本店）に《春雪譜》を出品。 Artforieux GALLERY OF TOKYO (GINZA SIX) にて個展「Imaged Landscape」を開催。 グリーティング切手「日本の絵画」に《月明那智》《美空》が採用される。 第一〇二回再興院展（東京都美術館）に《新緑の沼》を出品。
二〇一七（平成二十九）年	六十三歳 六十四歳	三月 四月 六月 九月	この年、横山大観記念館の理事に就任。 第七十三回春の院展（日本橋三越本店）に《冬風》を出品。 第一〇三回再興院展（東京都美術館）に《月空》を出品。 日本橋高島屋にて「手塚雄二展 光を聴き、風を視る」を開催、その後横浜高島屋、大阪高島屋、京都高島屋、福井県立美術館を巡回。 東京藝術大学退官展を開催。
二〇一八（平成三〇）年	六十五歳	三月 九月	この年、「明治神宮内陣御屏風（日月四季花鳥）」が完成。
二〇一九（平成三十一）年	六十六歳	三月 十月	

編纂…前田詩織（福井県立美術館 学芸員）

参考文献

- ・『現代日本画の探究者 手塚雄二——花月草星展』日本経済新聞社、二〇〇六年
- ・『手塚雄二作品集 夜想』小学館、二〇〇六年
- ・『手塚雄二新作展』松坂屋、二〇〇四年
- ・『手塚雄二 一瞬と永遠のはざま〜朝日新聞社、二〇一〇年